

ラスモルタル外壁の設計・施工状況に関する調査 その3 雨漏れ対策に関連するアンケート調査結果

正会員 ○西田和生*1 同 山崎 肇*4
同 鈴木 光*2 同 宮村雅史*1
木田 捷*3 同 石川廣三*5

アンケート調査 外装材 モルタル壁
劣化 仕様 左官

1. はじめに

本報では、設計・施工アンケート調査結果から雨漏れ対策に関連する項目について報告する。

2. 雨漏れに関連するアンケート調査結果

設計施工時に参考とする資料(図1)は、日左連による書籍や建築学会標準仕様書が多く参考とされている。それに次いで材料メーカーやハウスメーカーの独自の仕様書等や協会・組合等の資料が利用されている。一方、金融支援機構の仕様書や瑕疵担保責任保険の設計施工基準はあまり参照されていない。

モルタル直張り工法の防水紙の種類(図2)では、アスファルトフェルト 17kg品の使用が最も多く430の使用があまり多くない。近畿、北海道・東北、九州では、8kg品の使用が多い。また、前掲各仕様書で直張り工法には不適当(設計施工基準3条確認品を除く)とされている透湿防水シートも12%程使用されている。

防水テープの施工状況(図3)は、窓の関東、東海などが、80%程度であるが他の地域は比較的少ない。他の部位では、施工しているとの回答が少ない。

窓周辺の防水テープの施工順序(図4)は、推奨されている、下枠、縦枠、上枠の順に施工する場合が約80%あり、近畿では幾分少なかった。

防水テープの加圧方法(図5)は、手で押さえる場合が多く、ローラーやへらを用いているのは1/4ほどであった。窓周辺の段差を調整する面合わせ材の取り付け頻度(図6)は、時々と全てを合わせても1/3ほどであり、九州では、全く使用しないが35%と多かった。

窓台の先張りシートの施工頻度(図7)では、全てと時々を合わせるとほぼ半数であった。

地域別の軒の出(図8)では、住宅密集地の軒の出が短く、特に関東、近畿で30cm以下の回答が多くなっている。一般的な住宅地でも東京では30cm以下の回答が多い。一方、農村部では、71cm以上が多くなっている。

4. まとめ

本調査は住宅瑕疵担保履行法の完全施行前ではあるが、JASS 15等の推奨仕様以外で設計・施工する割合が高い地域が存在した。また、一般的と考えられる住宅金融支援機構の仕様や保険法人の基準の参照度は低かった。

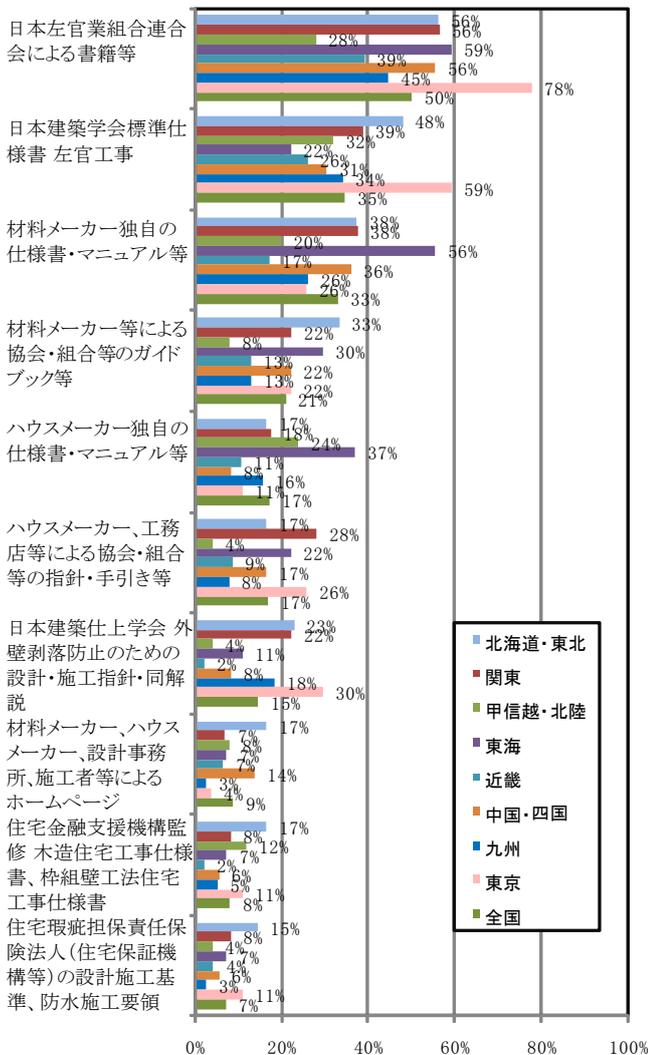


図1 デザイン・施工における参考資料

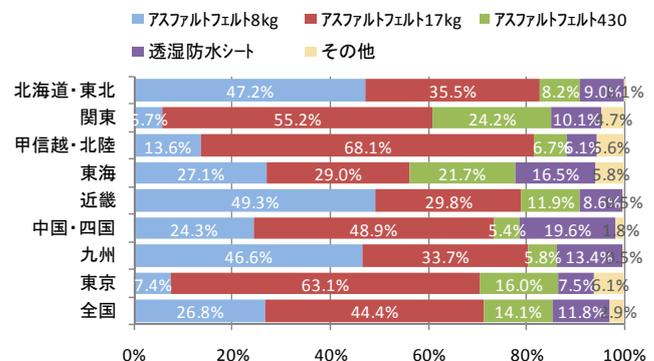


図2 モルタル直張り構法の防水紙の種類

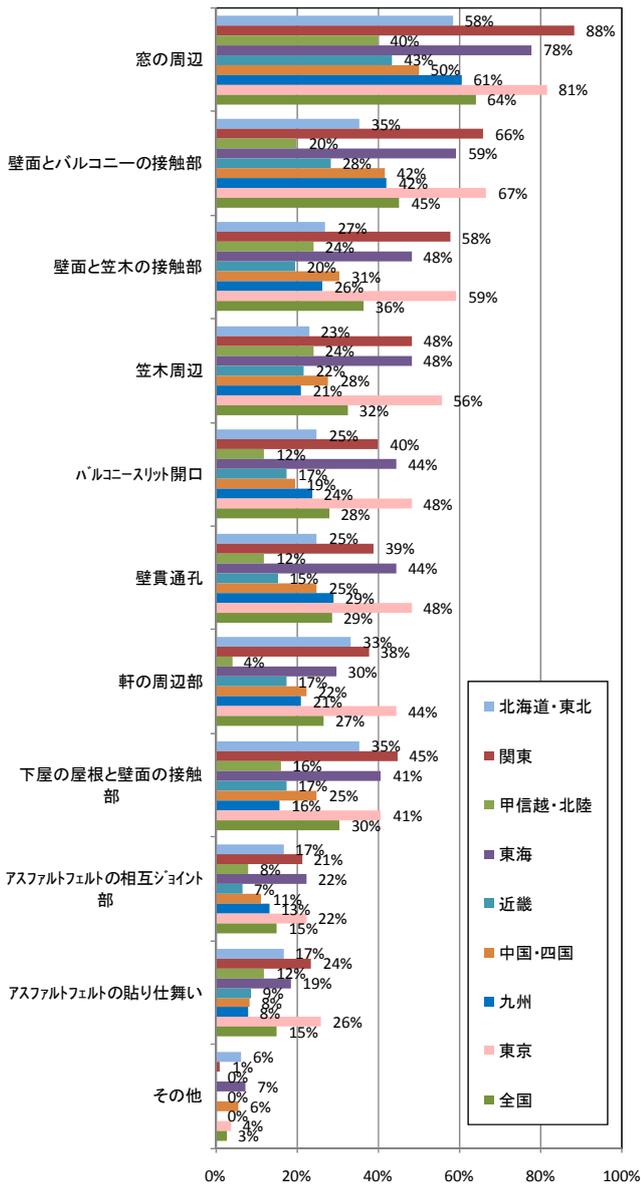


図3 防水テープの施工状況

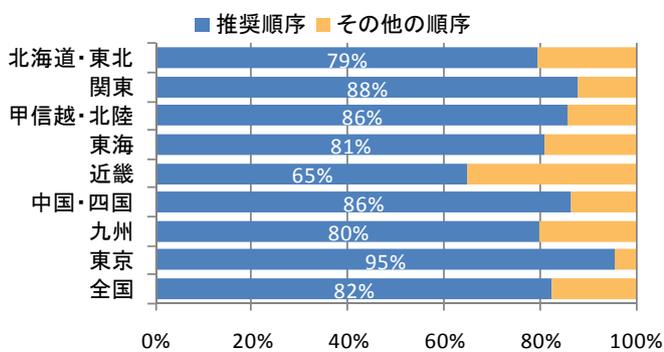


図4 窓周辺の防水テープの施工順序

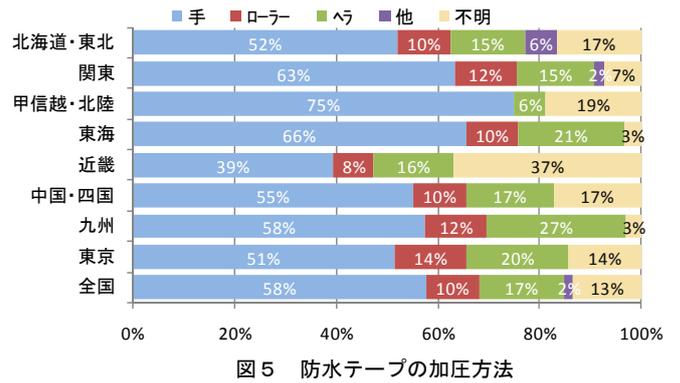


図5 防水テープの加圧方法

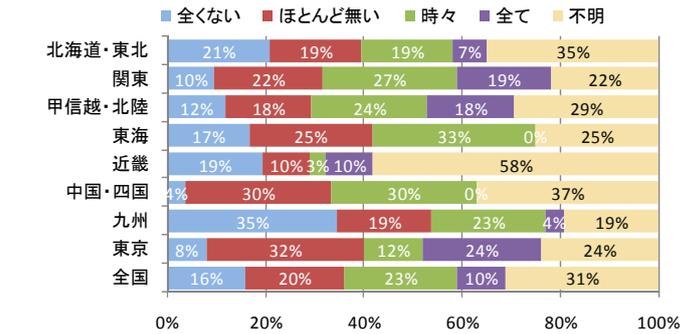


図6 面あわせ材の取り付け頻度

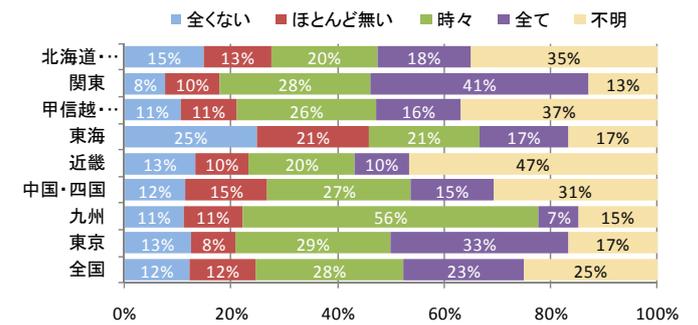


図7 窓台の先張りシートの施工頻度

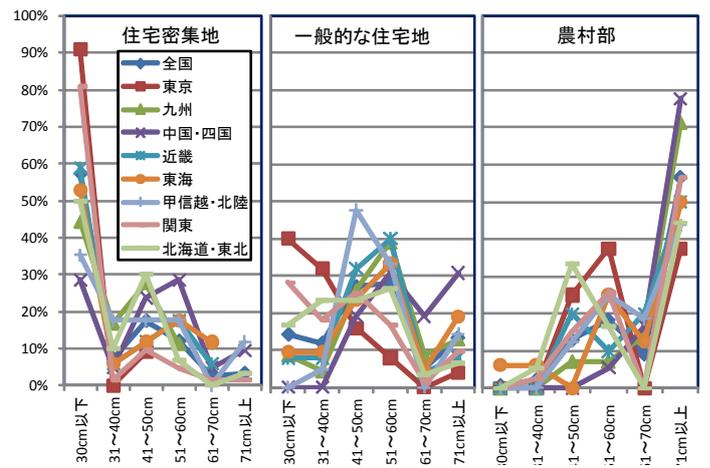


図8 地域別の軒の出

*1 国土技術政策総合研究所 *2 日本左官業組合連合会
 *3 日本自動釘打機ステープル工業会
 *4 日本防水材料連合会
 *5 東海大学 名誉教授 工博

*1 National Institute for Land and Infrastructure Management
 *2 Japan Plasterers' Association *3 Japan Staple, Nail, And Tool Association
 *4 Japan Waterproofing Material Association
 *5 Tokai University, Dr. Eng.